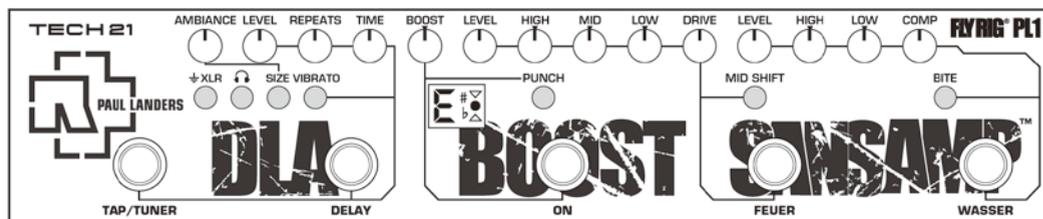


TECH 21



USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。
本機は Rammstein の Paul Landers のシグネチャーモデルとして設計されました。Paul Landers は、Tech 21 製品である、SansAmp GT2 と SansAmp PSA の両方を長年使用してきました。彼は Fly Rig の軽さと機能性を気に入りましたが、彼が望む機能の全てを網羅してはいませんでした。そこで、彼のニーズに合う Fly Rig を制作を決定。開発に関する議論の直前に、Rammstein は 2017 年のツアーのリハーサルで Paul は当初、非常にハイエンドのデジタルエミュレータ / エフェクトプロセッサを選択しましたが、突然それが落ち、急遽 SansAmp GT2 を使用したところ、GT2 のほうが「空気感」と「ライブ感」を多く演出しました。この経験が Paul の Signature Fly Rig の最初の設計基盤となりました。他の Fly Rig とは異なり、Paul Landers PL1 シグネチャ Fly Rig は 1 つはクリーン、もう 1 つはダーティの 2 つの SansAmp セクションを持ち、その他の機能には、タップテンポコントロール付きのカスタムデザインのビブラートエフェクト、雰囲気を選択するアンビエンスコントロール、および 2 つのモードのブーストを搭載しています。

3 接続

ギターアンプとの接続：

標準のエフェクトペダルと同じように、本機をインラインで接続できます。あなたのアンプのプリアンプが多くの特徴を与えすぎているときは、低レベル入力に接続し、できるだけフラットに設定してください。多くのアンプは明るめの傾向があるため、SansAmp セクションの High を 12 時より下から始めて、調節してください。また、ほとんどの真空管アンプではサチュレーション（飽和状態）になると、ミッドレンジがカットされる傾向があります。それで、HI と LO が最小で、MID が最大の状態で最もフラットなサウンドが達成されることがあります。その状態は決して以上ではなく、この状態から好みに合わせて調節することをお勧めします。また、エフェクトループリターンにプラグインすることもできます（アンプにそれがある場合）。これにより、アンプのプリアンプ全体が無効になり、サウンドをより正確に表現できます。

ダイレクトにレコーディングする：

必要なトーンシェイピングとキャビネットエミュレーションはすべて、ペダルの SansAmp セクションにすでに組み込まれています。本機は、ギターの手信号を自動的にローインピーダンスに変換し、通常、ギターの手信号を直接入力するさまざまな入力に接続できます。ミキサー（ライブおよびスタジオ）、ワークステーション / レコーダー、さらにはコンピューターのサウンドカードに直接接続することもできます。

3 入力と出力

1/4" フォン INPUT & IN PAD スイッチ：

ピエゾのフルサウンドを実現する 4.7 メガオームのインストゥルメントレベル。通常の信号レベルは標準のベースギターのそれに近いはずですが（およそ -10dBm / 250mV）。アクティブベース用の In Pad スイッチは、入力を -10dB します。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4" フォン OUTPUT：

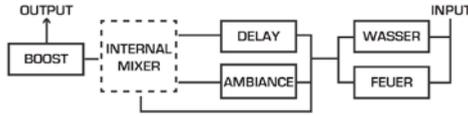
アンバランス 1kΩ ローインピーダンスインストゥルメントレベル。この出力は、ハイインピーダンスのギターアンプ（またはエフェクト）とローインピーダンスのミキサーおよびコンピューターの入力に接続できます。ペダルがバイパスモードのとき、出力レベルはユニティゲインです。また、バイパス中も長いケーブルでも信号を損なうことはありません。

BALANCED XLR OUTPUT & GROUND CONNECT スイッチ ($\frac{1}{XLR}$)：

バランスド XLR ローインピーダンスアウトプットです。GROUND CONNECT スイッチを ON にする (\blacksquare) とグラウンドが接続されます。また、このスイッチを OFF にする (\blacksquare) と本機のグラウンドはカットされた状態になり、接続されているミキサー等のグラウンドに接続されていない状態になります。

4 ご使用の前に

信号の流れ：



ユニティゲインのレベル設定：

ペダルがアクティブかバイパスに関わらず、出音が同じ音量になるようにレベルコントロールを設定します。次のアンプやエフェクターが、通常よりもはるかに大きなシグナルが入力されたり、小さすぎるシグナルが入力されたりしないよう調節してください。

DLA セクションのクリップインジケータ：

DLA セクションの AMBIANCE コントロールにはクリップクリップインジケータが組み込まれています。回路が過負荷になると、DLA セクションの AMBIANCE コントロールが赤く点滅して警告します。強めのピッキング時の瞬間的な点滅（ピーク）は問題ありませんが、継続的に点灯する場合は、対応するコントロールを調節してください。

5 SANSAMP セクション

オールアナログの SansAmp テクノロジーはスムーズで均一なレスポンスを実現するように設計されているため、レコーディングデスクや PA システムのミキサーに直接接続し、SansAmp テクノロジーを使って強化することができます。直接録音したり、以前に録音したトラックを強化するのにも使用できます。

SANSAMP WASSER：

SansAmp Wasser (Water) セクションは、アンプのクリーントーンを主にシミュレーションしています。

COMP：

50 年代から 60 年代ごろのコンプレッサーを再現した、暖かく、クリアで、音楽的なコンプレッションを演出します。ソフトでかろうじてわかるようなものから超コンプレッション、無限のサスティンまで幅広く調節が可能です。

LOW & HIGH：

EQ セクションは、スタジオミキシングボードのように、あなたに完全な EQ コントロールを与えます。カットするパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時を 0 として ±12dB カットまたはブーストします。LOW は 120 Hz で ±12 dB、HIGH は 3.3 kHz で ±12 dB です。

LEVEL：

SansAmp セクションがオンになっているとき、ユニットの出力レベルを調整します。このコントロールは、さまざまな機器との最大限の互換性を保つために非常に広い範囲を備えています。

BITE スイッチ：

プレゼンスブーストをアクティブにします。はっきりとしたエッジの効いたサウンドになります。

5 SANSAMP セクション

SANSAMP FEUER：

SansAmp Feuer (Fire) セクションは、アンプの歪んだトーンをシミュレーションしています。

DRIVE：

オーバードライブの全体的な量を調節します。

LOW, MID, HIGH:

スタジオミキシングボードのように、完全な EQ コントロールが可能です。カットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、これらのアクティブコントロールは 12 時をフラットとしてカット、ブーストします。LOW と HIGH は 1K を中心としたアクティブ・シェルビング EQ で、±12dB です。MID は 700 Hz / 1400 Hz で ±12 dB。MID SHIFT スイッチ：700 Hz ()、1400 Hz () から選択できます

LEVEL：

SansAmp セクションがオンになっているとき、ユニットの出力レベルを調整します。このコントロールは、さまざまな機器との最大限の互換性を保つために非常に広い範囲を備えています。

レベル設定のヒント:特に PL1 を直接 PA に接続している場合は、最良の S / N 比を得るために、Level コントロールを必ずユニティゲイン (出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態) に設定してください。

6 BOOST セクション

Punch mode ()：

音量を調節します。トーンは変わりません。

Punch mode ()：

ワイドミッドレンジブーストを行うことでソロを引き立たせます。

7 DLA セクション

ビンテージテープエコーのような暖かなディレイを演出します。

TIME：

ディレイタイムを設定します。連続可変コントロールで、最大 750 ミリ秒まで思いのままに設定可能です。演奏中にこのノブを回すと、ビンテージアナログディレイのように、ギターのパッチが変化します。ピブラートモードでは、スピードコントロールとして機能します。

REPEATS:

ディレイの反復回数を調節します。7 時の位置で 1 回、設定を大きくすると、それに応じて繰り返しは無限になるまで続きます。最大に設定すると発振します。

REPEATS 設定のヒント：

アンプのフロントインプットで DLA を使用すると、アンプは信号を圧縮し、繰り返しはより顕著になります。そのため、エフェクトループで実行するときよりも設定を低くする必要があります。たとえば、エフェクトループでの「REPEATS」10 時の設定では、3 回繰り返します。ただし、アンプのフロントインプットにつないだ場合、8 時の設定で同じ結果が得られます。

7 DLA セクション

LEVEL:

3つの役割を持つコントロールです。

DLA セクションの出力レベルを調整。

クリップインジケーター。(4. ご使用前の前にを参照ください。)

ビブラートモードのときはデプスコントロールとして機能します。

TAP TEMPO:

TAP スイッチを演奏中にタップするだけでディレイテンポを設定できます。

Tap Tempo は TIME 設定を無効にします (逆に TIME ノブを回すと TAPTEMPO は無効になります)。この機能はバイパスでも機能しますので、事前に設定できます。タップテンポを変化させても、ギターのピッチは変わりません。

VIBRATO :

スイッチを押し込むとビブラートエフェクトモードとなり、TIME ノブと LEVEL ノブの機能が変更になります。TIME はビブラートの速度をコントロールします。(最小 = 遅い 最大 = 速い)

LEVEL はビブラートの深さを調節します。最低で、効果なしになります。

NOTE : タップテンポを使って速度を制御することもできます。(Time コントロールは無効になります。) ビブラートモードでは、Repeat ノブは無効になります。

AMBIANCE :

ルームアンビエンス (エア) マイクシミュレーションの量を調節します。

■ = 音源の近く

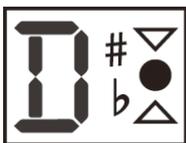
■ = 音源のやや遠く

Wasser または Feuer が ON になると、アンビエンスは自動的にオンになります。

「オフ」にしたい場合はこのコントロールを最小にしてください。

8 その他の機能

クロマチックチューナー :



TUNER スイッチを踏み込むことでクロマチックチューナーが起動し、入力信号をミュート、チューナーウィンドウの LED が点灯します。緑色のランプが点灯している場合は、チューニングが合っています。赤い矢印が出た場合は上向き矢印 = フラットしています。ピッチを上げてください。

下向き矢印 = シャープしています。ピッチを下げてください。

目的の音に近づくと、矢印は速く点滅し、チューニングが合うと消えます。

その後緑色のランプが点灯しチューニング完了です。

ヘッドフォンスイッチ (🔇) :

1/4 " 出力端子がヘッドフォン用出力に替わります。音量が上がり、ヘッドフォンの左右ともに聴こえるようになります。

注意 : ミキサーやアンプの入力に接続する場合は、この機能を解除してください。

9 使用上の注意

- ◆ ヘッドフォンを通して聞くとサウンドが明るく聞こえる場合があります。コントロールを調整してください。ミキサーやアンプに直接接続する場合は、ヘッドフォンスイッチをオフにするのを忘れないでください。信号がクリップされる可能性があります。
- ◆ 本機のコントロールは緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の効果を求める場合にも、すべてを最大に設定する必要はありません。例えばサウンドを明るくしたい時は、HI を上げるのではなく、LOW を下げてみてください。
- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。
- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。その他エフェクトを使用する際は一般的な使用法として、本機の前 : フェイザー / バイブ、オーバードライブ、ワウ等
本機の後 : ディレイ、EQ、フランジャー、フェイザー (後もおすすめです)、ピッチシフター、リバーブ等
をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。
- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。

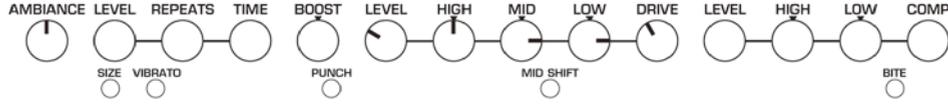
10 サンプルセッティング

ON (IN) ● OFF (OUT) ○ NOTE: When there are no knob indicators present, that function or section is not engaged.

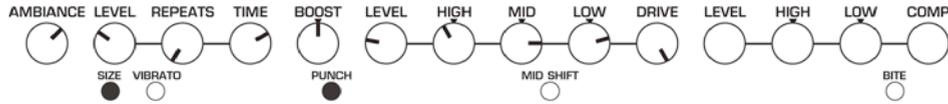
SAMPLE SETTINGS



PAUL LANDERS/Main



PAUL LANDERS/Lead



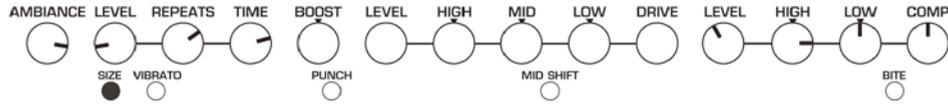
Note: All of Paul's settings are based upon using a Les Paul-type guitar with passive pickups, running ampless direct to the PA and in the studio.

ON (IN) ● OFF (OUT) ○ NOTE: When there are no knob indicators present, that function or section is not engaged.

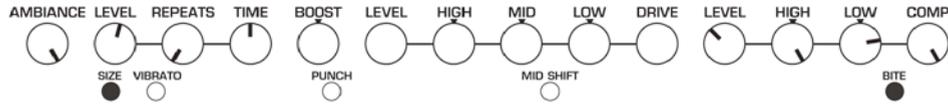
SAMPLE SETTINGS



PAUL LANDERS/Clean



PAUL LANDERS/Surf

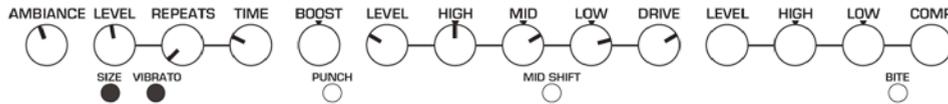


ON (IN) ● OFF (OUT) ○ NOTE: When there are no knob indicators present, that function or section is not engaged.

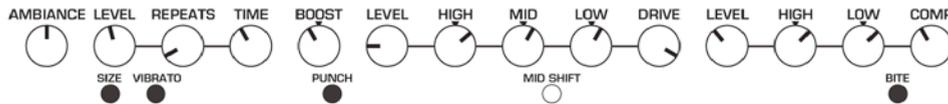
SAMPLE SETTINGS



PAUL LANDERS/Doom



METALLICA/Ride the Lightning-style



この他のサンプルセッティングに関しましては英語版マニュアルをご参照ください。